

## 企画趣旨

自殺が年間 3 万人を超えてから久しい。この間、国や企業による様々な対策が行われているにもかかわらず、うつや自殺問題は依然として改善されていない。このようなメンタルヘルスの問題の背景の一つに、心理社会的バリアが潜んでいる。日本社会では、「過労死」や「サービス残業」という言葉に表れているように「働くこと」に関する独特の価値観が存在する。機能的であることに高い価値を認める企業や、「働かざる者食うべからず」といった社会的価値観は、時として個人のメンタルヘルスの促進や回復を妨げる「心理社会的バリア」を生み出している。

たとえば、強い疲労感などに関しては薬物治療によって生物学的な面で回復したとしても、上記の心理社会的バリアが存在する場合には、「自分は社会の役に立たない人間だ」といった否定的な考え方や、そのような考え方に由来する社会的交流の回避といった問題の克服は容易ではない。心理社会的バリアは、メンタルヘルスの促進および不調からの回復を阻む障壁として機能している。バリアフリー教育開発研究センターでは、こうしたバリアの解消、すなわち心理社会的バリアフリーを目指すことを重要なテーマとしている。

「心理社会的バリア」の形成には、個人だけでなく、企業や社会といった環境による要因が大きく関わっている。例えば、メンタルヘルス不調によってケアを必要としていても、他者の目や人事評価を気にするために、必要な支援を受けないまま過ごしてしまい、結果として休職を余儀なくされるといった状況が考えられる。家族や上司がうつ病を適切に理解し、支援を行うことによって未然に防ぐことができた問題が、心理社会的バリアが存在することによって悪化してしまう。

そこで、本シンポジウムでは、社会の中にあり、そして日本人の誰の中にもある心のバリアを見つめ直すとともに、企業などの協力を得て、働くこと、そして生活していくことについての新たな価値観の創造を目指す社会システムを構築することを提案する。

最新の ICT (Information and Communication Technology) を活用するシステムを開発し、それによって心理社会的バリアを越えて、うつ病の知識、予防、社会復帰に自由にアクセスできるメンタルヘルス・システムを構築し、国民が安心して楽しく働ける社会を、企業と国民が協力して創造していく方法を議論するシンポジウムとしたい。

また、本学の情報理工学研究科に新設されるソーシャル ICT グローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム (GCL) や関連の先端企業、さらには諸外国の関連の研究施設との共同研究を通して開発しつつある ICT 活用の展開可能性についても紹介する。



下山晴彦  
バリアフリー教育開発研究センター長／臨床心理学コース 教授

## プログラム

15:00

開会 司会：野崎大地 (バリアフリー教育開発研究副センター長／身体教育学コース 教授)  
開会の辞 武藤芳照 (東京大学 理事・副学長 (バリアフリー担当))

### 企画趣旨説明

### 「うつ病の治療」と「心のバリアフリー」と「ICTの活用」をつなぐ

下山晴彦 (バリアフリー教育開発研究センター長／臨床心理学コース 教授)

1957 年生まれ。東京大学大学院教育学研究科博士課程中退。東京大学学生相談所助手、東京工業大学保健管理センター講師、東京大学大学院教育学研究科助教授等を経て現職。博士 (教育学)、臨床心理士。著書に、『認知行動療法を学ぶ』(金剛出版)、『家族のためのよくわかるうつ』(池田書店) 等、多数。

15:20

## 第I部 産業領域におけるメンタルヘルスの現状と課題

### 1) 職場のメンタルヘルスの現状と課題

椎葉茂樹 (厚生労働省 労働基準局 安全衛生部 労働衛生課長)

1963 年生まれ。1988 年産業医科大学卒業、厚生省入省。労働省安全衛生部化学物質調査課調査係長、厚生労働省健康局総務課課長補佐、厚生労働省医政局研究開発振興課課長等を経て、2011 年より現職。



### 2) 社会問題としてメンタルヘルスを考える

山口 聡 (日本経済新聞社 生活情報部 編集委員)

1987 年日本経済新聞社入社。東京地方部、長野支局、東京経済部を経て、2004 年より生活経済部 (現生活情報部) 編集委員。主に社会保障制度やその周辺分野を担当。



### 3) 日本人の働く価値観の見直しと心理支援の現在

高橋美保 (臨床心理学コース 准教授)

民間企業勤務後、慶應義塾大学大学院社会学研究科修士課程にて臨床心理学を学び、2008 年東京大学大学院教育学研究科博士課程修了。2011 年より現職。博士 (教育学)、臨床心理士。主に失業者や就労者の心理と援助についての研究と実践に携わっている。



16:20

休憩 (20 分間)

16:40

## 第II部 ICTによるバリアフリーの実現とメンタルヘルスの未来

### 1) 産業社会における心理社会的バリアフリーに向けて

星加良司 (バリアフリー教育開発研究センター 専任講師)

1975 年生まれ。東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了。東京大学先端科学技術研究センター特任助教等を経て、現職。博士 (社会学)。主な研究テーマは、障害の社会的理論モデル、障害とシティズンシップ、障害研究における「当事者性」の学術的・社会的意味等。著書に『障害とは何か：ディスアビリティの社会理論に向けて』(生活書院、2007 年) 他。



### 2) ICT活用によるうつ病の予防と社会復帰支援の発展 — 世界と日本の実際 —

下山晴彦 (バリアフリー教育開発研究センター長／臨床心理学コース 教授)

### 3) ソーシャル ICT によるメンタルヘルス・イノベーション

國吉康夫 (情報理工学系研究科 知能機械情報学専攻 教授 / GCL コーディネーター)

1991 年東京大学大学院工学系研究科修了。電子技術総合研究所研究員、同主任研究官、米国マサチューセッツ工科大学人工知能研究所客員研究員、東京大学助教授を経て、現職。2012 年より理研 BSI- トヨタ連携センター長 (兼務)。博士 (工学)。身体性に基づく認知の創発と発達、模倣の科学、ヒューマノイドロボット、構成論的発達科学等の研究に取り組んでいる。

